

対面・オンデマンド配信による秋の講演会を開催しました

あけましておめでとうございます。本年も近畿教育オーディオロジー研究協議会をよろしくお願いいたします。

昨年、11月29日に大阪府社会福祉会館にて、「秋の講演会」を開催しました。また、今回も講座動画をYouTubeで限定公開し、オンデマンド配信も行いました。たくさんのご参加ありがとうございました。遅くなりましたが、第92号では、みなさんからお寄せいただいたアンケートから、ご感想を紹介します。

「手話言語学の基本と手話の獲得」

金沢大学 人間社会研究域 学校教育係 教授

武居 渡 先生

参加者の感想

○大変勉強になりました。言語として手話を理解するという視点で講演を聞いたのは初めてで、とても分かりやすく、学びになりました。手話の獲得の発達の段階があること、言語としての法則性などもっと知っていきたいと思いました。手話だけではなく、手話言語の文化を継承していくためにも、学校がどうあるべきかが問われるし、私たちが学び続けること、頑張らないといけないなと思いました。

○手話が独自の文法を持つ言語であることを言語学の視点からわかりやすく学ぶことができた。例文そしてそのモデル表現がとても分かりやすく、手話の豊かさと奥深さを具体的に理解することができた。

○このような内容は初めてでした。手話言語の獲得のプロセス、分析…興味深く聞かせて頂きました。以前はろう学校へ来校した卒業生たちがずっと話をしていた手話コミュニティを少し感じましたが、最近（コロナ以降）の姿も見るのが減ったと思っていました。聞こえる両親から生まれた子の手話はろう学校で教わらないと獲得できない。聞こえない子に対する手話の学習の場の必要性を感じました。

○具体的でとても深い話が聴けて参考になりました。動きをしっかりと観察して特徴を見ていきたいと思えます。また、自分が使う時ちょっとした動きや表情も大切にして表現することが大切だと感じました。基本的な知識が知れたことで手話の表現の面白さを感じることができました。これから学ぶ際の参考になりとてもよいお話でした。

○手話が独自の文法を持つ言語であることを言語学の視点からわかりやすく学ぶことができた。例文そしてそのモデル表現がとても分かりやすく、手話の豊かさと奥深さを具体的に理解することができた。

○手話の知識が大切だと分かりました。複雑だけれども文法や表現を学ぶことが手話の環境をつくることはろう学校の役割のひとつだと思います。必要とも思いました。手話のレベルを上げる課題は大きいとも感じましたが、少しずつ学びたいです。貴重なお話ありがとうございました。

○とても興味深い内容でした。いつも何気なく使っていた首の傾きなどに文法の意味がある等が分かり面白かったです。手話の談話のロジックの話も改めて聞くと今後の話の仕方などに工夫できることもあったと感じました。

○近畿教育オーディオロジーで、手話をテーマにした講演を企画されたことは、大変意義深いことだと思いました。ありがとうございました。改めて、これまでの勉強不足を反省するとともに、学校と手話を学ぶ機会の確保やシステム化が必要であると感じました。

〈運営に関して〉

受付・開始時間について、たくさんのご意見を賜り、誠にありがとうございます。

頂いたご意見は、今後の運営の参考にさせていただきます。

今後の予定

(令和8年)

○2月6日(金) 第3回代表委員会(滋賀県立聾話学校)

○2月7日(土) 冬の学習会 草津市立市民総合交流センター(キラリエ草津)

午前

講師 安岡 公美子 先生(医療法人社団昂会日野記念病院
耳鼻咽喉科 部長)

演題 『聴覚障害を持つ医師としての経験から』

午後

講師 田原 敬 先生(国立大学法人茨城大学教育学部
准教授)

演題 『これからの聴覚活用を考える』

○3月下旬 集録第26号発行、機関紙93号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

〒670-0012

兵庫県立姫路市本町68番地46

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校内

TEL: 079-284-0331

FAX: 079-222-5237

メール: kinkieaa@gmail.com